

L'aile d'Howl

【ライル・ドウル：ホウルの翼(伝語)】

2014年10月号



紅葉が綺麗に見られるようになって
いますが、日に日に冬の足音が
聞こえてきましたね。ハンドボールの
熱気は年中続きます！
高校新人戦も楽しみです☆



レポート：第2回全国U-12指導者研修会に参加してきました！

岩手県では県総合選手権が行われていた10月4日～5日、私編集長は、東京都北区にある味の素ナショナルトレーニングセンターにて開催された第2回全国U-12指導者研修会に参加してきました。全国各地から約60名の小学生ハンドボール指導者が集まり研鑽を積みました。

初日は開校式の後、筑波大ハンドボール部監督の藤本元さんから「ジュニア指導の重要性」というタイトルで講義をいただきました。本来スポーツとは休養や娯楽、または憂いを持ち去るものとして発展してきたものであるが、日本においては運動そのものが戦時に軍用されたため、「スポーツの豊かさ」が失われ、楽しみよりも修行や鍛錬という側面のみが重視されてきてしまったといいます。そのため、日本人はどうしても精神主義、勝利主義、あるいは集団主義に偏りがちになってしまうが、やはり本来スポーツが持つ豊かさや楽しさを子どもたちにも伝えていかなければならないというお話でした。プレーヤーの主体性を無視した勝利至上主義はもってのほか。やはり、「なぜ人はスポーツをするのか。それは豊かに、より良く生きるためだ」ということを念頭において指導することが大切だと改めて感じました。



続く実技講習では、花巻でも講習会を開催していただいたこともあるネメシュ・ローランドさんが講師でした。久しぶりの再会に感激！講習の中では、強い体、特に体幹を鍛え、腰を痛めない体を作るために、自重を使った体カトレーニングをミックスしたような練習メニュー等を教えていただきました。実際に自分たちで動いて体験したのですが、順番待ちで時間をつぶすことなくどんどん動くため、子どもたちが飽きることもなく、また短時間でも充実したトレーニングができることを実感しました。また、ハンガリーのハンドボール事情についてもお話いただいたのですが、特に興味深かったのは、U-12の世代は7人制のハンドボールはならず、4対4のミニハンド(マイクロハンド、ミディハンドなどもあるそう)をやるということ。そして1歳刻みでサイズの異なるボールが用意されていること。そして、ハンガリーではU-12の全国大会は存在しないこと。小学生のうちからトップを目指すのではなく、基本的な技術やハンドボールの楽しさを覚えることを重視しているのだな、と非常に共感しました。ハンガリーは全人口に対するハンドボールの競技人口の割合が非常に多いとのこと。やはりジュニア

世代はとにかくハンドボールを好きにさせることを中心にしているからこそ、最終的に本場ヨーロッパにおける強豪国の一角に育っていくわけなんですね。実技以上に学ぶことがたくさんありました。

翌日は、参加者をグループに分けて、それぞれの指導の在り方や悩み等についてディスカッションするというセッションがありました。共通の悩みとして挙げられたのは部員の減少。特に女子が入らなくて困っているチームがほとんどでした。また、練習会場の確保における苦労や、北海道では道内で練習試合をするのに片道5時間の移動が強いられている状況等を聞き、どの指導者も色々な悩みを抱えながらクラブ運営に取り組んでいることが分かりました。部員数がコンスタントに増加している岩手県の現状をお伝えし、どの方からも羨望の声があがる中、岩手県の育成方針は間違っていないという確信と、様々な宣伝活動をせずとも少年団に加入する子どもたちが後を絶たない状況

に、改めて感謝する気持ちでいっぱいになりました。

今回の研修会に参加し、学んだこと、そして新たに増えた小学生指導者仲間とのネットワークを、今後の指導に活かしていきたいと思いました。派遣して下さった岩手県ハンドボール協会に心より感謝申し上げます。

県中学校新人戦！花巻中男子は惜しくも準優勝！

10月18日～19日の両日、花巻市総合体育館において、第32回岩手県中学校新人ハンドボール大会が開催され、地元・花巻中男子が6年ぶりに決勝に進出、惜しくも敗れ準優勝となりました。では花巻勢の大会の様子を振り返ってみましょう！



＜花巻北中・女子＞ 城西中との初戦は、非常にロースコアな展開ながらも終始リードを保ち、10-6で勝利を収めました。続く2回戦は、盛岡地区大会において準優勝だった厨川中との対戦となり、前後半合わせて2得点のみに留まり、上位入賞には至りませんでした。もっと積極的にゴールに向かっていく姿勢があれば、次回にはもっと良い成績が期待できるはず！なお、守護神として花巻北中ゴールを守った千葉夏希選手が優秀選手に選ばれました！

＜花巻中・女子＞ 1回戦は、盛岡地区大会ベスト4の大宮中が相手。県大会上位の常連校だけに厳しい戦いが予想されました。前半を5-6の1点ビハインドで折り返しますが、なんとか後半逆転し、13-11で辛勝。2回戦へ駒を進めました。続く相手は松園中。こちらも盛岡地区大会でベスト4に入ったチーム。前半はなかなかペースを掴むことができず、8-4とダブルスコアで後半へ。石亀萌夏選手（花巻クラブジュニアOG）が気を吐きますが、エース一人頼りの状況にDFが集中し、苦しい状況を打破することができませんでした。12-9とこちらもロースコアな試合でしたが、昨年に続く春の全中出場の目標は叶いませんでした。やはり、どのポジションからも得点できるチーム作りが必要ですね。なお、ポイントゲッターとしてチームを牽引した石亀萌夏選手が

優秀選手に選出されました。

＜花巻北中・男子＞ 大宮中との初戦に22-14で敗退し、残念ながら上位入賞はなりません。少年団出身者が多数所属しているため、これからのチーム力向上に期待がかかります。大崎カップではトーナメントで勝ち進めるように頑張してほしいものです！

＜花巻中・男子＞ 紫波一中との初戦は、前半を15-4と大差で折り返すと、後半も15得点で一気に突き放し、余裕をもって次戦に駒を進めました。続く見前南中との対戦も、前半で17-7と10点差をつけてハーフタイムへ。得点を取られた後も、千葉遥貴選手（花巻クラブジュニアOB）のリスタートなどですぐさま取り返し、相手につけている隙を与えません。28-21で勝利を収め、翌日の準決勝に残ることができました。黒石野中との試合は、まるで我慢比べ。互いに譲らず、試合は黒石野中ペースのロースコアで進みます。8-6で前半終了、後半になってもその得点ペースは変わらず、花巻中がかろうじてリードを保ち、15-12で勝ち、6年ぶりに決勝の舞台に進出しました。ついに迎えた決勝戦、決勝に進出したことで満足してしまったか、あるいは初めての舞台での緊張からか、完全に矢巾中にリズムを掴まれません。畠山幸大選手、大堰陽選手がチームをリードしますが、勢いに乗る矢巾中は非常に速い攻撃を連発し、18-7という大差で後半を迎えます。花巻中は気持ちを切り替えて後半に臨みましたが、前半でついた得点差を埋めることができず、36-21で完敗。準優勝で今大会を終了しました。最後まで気を緩めることなく、そしてもっとがむしゃらにプレーする意気込みがほしいと感じました。大崎カップではリベンジを果たせるように期待しています。なお、畠山幸大選手、大堰陽選手、そして菊池貫太選手（花巻クラブジュニアOB）の3名が、大会優秀選手に選ばれました。これを励みに、さらなる努力と向上を期待します！



花巻市小学生ハンドボール教室・秋の陣が開幕！

10月20日より、毎年恒例となっている花巻市小学生ハンドボール教室が開催されています。11月17日まで、毎月曜日18:30～20:30まで、花巻市総合体育館にて、みんなで楽しくハンドボールを体験しています。ここ最近では、石鳥谷地区、大迫地区などからも参加者が増えています。特に、低学年の人数が増えているな、と感じています。是非、お友達をたくさん誘って、みんなで楽しくハンドボールをやりましょう！

L'aile d'Howl (ライル・ドウル)
2014年10月号
2014年10月25日 発行
発行:花巻市ハンドボール協会